

箱根駅伝出場校の駅伝主将経験・駅伝主務経験が

コミュニケーション・スキルに影響を及ぼす要因について

スポーツ経営組織学ゼミナール 1216073 樽沼 達也

1. 研究動機・研究目的

昨今、コミュニケーション・スキル(コミュニケーション能力)の必要性が声高に叫ばれている(小林 2012)。大坊(2006)は、「近年、他者への配慮、世間への考慮、双方向の密度の高いコミュニケーションなどが十分ではなく、お互いを支え合う社会的なサポートが乏しく、理解不足や軋轢によって容易に不適合が生じやすくなっている傾向がある」と述べており、コミュニケーション・スキルの必要性が高まっていることが考えられる。

スポーツ組織、とりわけ大学駅伝部に着目すると、駅伝主務としてチームリーダーとして活動し、時にはチーム全体にリーダーシップを発揮する場面もある。一方で、同じ組織には主将という選手のリーダーとしてチーム全体を競技者として引っ張っていく存在がいる。同じリーダーではあるが、このような立場の違ったリーダーシップによって、それぞれが身につけることができるコミュニケーション・スキルには、違いがあるのではないかと考えられる。

これらの背景を考慮しつつ、本研究では、第96回東京箱根間往復大学駅伝競走のシード校に所属している主将と主務といった立場の違ったリーダーシップを発揮する学生に着目し、それぞれの立場がコミュニケーション・スキルにどのような影響を及ぼしているかを明らかにしていく。

2. 研究方法

本研究では第96回東京箱根間往復大学駅伝競走のシード校10校(前回大会上位10校)の中の4校の駅伝主将4名、駅伝主務4名の計8名を対象とした。対象者である各大学の駅伝主将、駅伝主務と調査者で1対1の半構造化インタビュー調査を実施した。倫理的配慮としては、ICレコーダーにて録音すること、ICレコーダーで記録したデータ、または分析のために逐語に書き起こしたデータは研究関係者以外に触れられることなく、研究成果の発表の際には、匿名で公表し、個人が特定されるような公表は一切せず、プライバシー保護には厳重な注意を払うこと、いつでもインタビューを中断できることを確認したうえで実施した。大学内の教室や、人の少ない共同スペースといった騒音の少ない場所にて、1人あたり30分から40分の時間を要した。

3. 主な結果と考察

まず、駅伝主将へのインタビュー調査から得られたデータを基に、KJ法によるグループ編成を行った結果、1段目のラベル集め、ラベルづくりにより36の小ラベルが完成した。次に小ラベルを基に2段目のラベルを集め、ラベルづくりを行った結果、13の中ラベルが完成した。その後グループ編成を行い、6つの大ラベルが完成した。

川喜田(1985)は、最終的なラベル数は多くとも10以内であることが望ましいと述べているため、最終的に駅伝主将では①影響、②成長、③理想のチーム像、④特性、⑤自己主張、⑥傾聴の6つの大ラベルとなった。

駅伝主務へのインタビュー調査から得られたデータを基に、KJ法によるグループ編成を行った結果、1段目のラベル集め、ラベルづくりにより、29の小ラベルが完成した。次に小ラベルを基に2段目のラベル集め、ラベルづくりを行った結果、11の中ラベルが完成した。その後グループ編成を行い、6つの大ラベルが完成した。最終的に駅伝主務では①働きかけ、②つなぎ役、③獲得、④経験、⑤自己主張、⑥傾聴の6つの大ラベルとなった。

駅伝主将という立場だからこそ、自己主張、他者受容といったコミュニケーション・スキルを理想のチーム像実現のため、周りへの影響を与える際に用いていることが得られたデータによって考えられる。リーダーシップを発揮する経験はコミュニケーション・スキルの向上に影響を及ぼすということが、本研究では得ることができた。

②つなぎ役がコミュニケーション・スキルに及ぼす影響は大きいと考えられる。これはミンツバーグのマネジャーの10の役割における対人関係のリエゾンの役割と類似していると考えられる。リエゾンの役割とは、簡潔に言うならば外部ネットワークを構築・維持する役割である。駅伝主務特有の監督と選手とのつなぎ役という経験が、関係調整のコミュニケーション・スキルが多く抽出された要因であり、対象者のスキル獲得や周囲へのコミュニケーションに影響を及ぼしていると考えられる。

4. 結論

本研究の結論は以下の3点である。

1. 箱根駅伝出場校の駅伝主将経験がコミュニケーション・スキルに影響を及ぼす要因は、①影響、②成長、③理想のチーム像、④特性、⑤自己主張、⑥傾聴の6つが存在する。一方で、駅伝主務経験がコミュニケーション・スキルに影響を及ぼす要因は、①働きかけ、②つなぎ役、③獲得、④経験、⑤自己主張、⑥傾聴の6つが存在する。

2. 駅伝主将経験・駅伝主務経験がコミュニケーション・スキルに影響を及ぼす要因の中でも、「立場」が大きな影響を与えており、それぞれの立場で求められている役割の影響によって調査対象者のコミュニケーション・スキルは向上したと考えられる。

3. 駅伝主将と駅伝主務を比較すると、駅伝主将は自己統制型のコミュニケーションであり、駅伝主務では関係調整型のコミュニケーションであることが明らかになった。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文を執筆するにあたり、多くの方々のご指導ならびにご支援を賜り、誠に感謝申し上げます。特に水野基樹先生には本当に温かいご指導をいただき、心から感謝申し上げます。また、本論文を執筆するにあたり、論文の書き方等をご指導いただきました、スポーツ経営組織学ゼミナールの大学院生である菅野さん、杉浦さん、林さん、李さん、本当にありがとうございました。

本論文の執筆にあたり、ご協力、ご指導、ご鞭撻いただきました多くの方々に今一度感謝の意を表し、謝辞とさせていただきます。お力添えいただきました皆様、本当にありがとうございました。